

住んでいる地域のリスクを確認しましょう

## 避難は危険が差し迫る前に。命を守る行動を



南相馬消防署飯館分署  
分署長  
脇本 昌弘 さん

119番通報では、通報した携帯電話の位置情報を元に、消防車両が現場に向かうことができるので、自分のいる場所の地名が分からなくても通報は可能です。

しかし、大規模災害で被害が同時多発すると、消防車両も全ての現場に急行することはできません。

避難もできない場合は、建物の階の上の方へ、土砂災害の心配がある場合は崖から遠い方の部屋へ、一次避難をしてください。水の力は強く、ヒザ位の水深でも流れがあると足元を持って行かれてしまいます。水の中を歩くような無理な避難は大変危険です。車両も水に浸かると動かなくなる場合があります。

土砂災害で停電する可能性も考えて、懐中電灯や、水・食料を備えておきましょう。卓上コンロや、携帯電話に充電できるモバイルバッテリーなども備えて有効です。

村は、河川の上流にあるため、大雨で増水しても、雨がやむと一気に水がひきます。むしろ土砂災害の危険箇所が多くありますので、安全が確保できる場所にいる場合は、無理に動かないことも一つの方法です。避難をする場合は、危険が差し迫る前に移動するように心掛けましょう。

「今までは大丈夫だった」が通用しないのが現実です。どうぞこの機会に、ハザードマップで地域のリスクを確認し、備えを見直してみてください。



「飯館村防災ハザードマップ」より

# 今すぐチェック！ 災害に備えよう



## ココロの防災スイッチをONにしよう

近年、大規模な自然災害が、全国で繰り返し発生しています。今回全戸配布された「飯館村防災ハザードマップ」をチェックして、大雨や台風シーズンの到来に備えましょう。

大雨や台風による甚大な被害が、毎年のように全国のどこかで発生しています。

皆さんは、『防災』を意識して、「いざ」という時に備えていますか。いつ来るか分からない災害に、平時から備えたり、維持点検を続けたりすることは、大切だと分かつていても、なかなか難しいものです。

この機会に、『飯館村ハザードマップ』に目を通し、村内の危険箇所を把握すると同時に、災害の備えについても確認してみてください。

自治体が発令する『避難情報』の名称や、『警戒レベル』の内容が、今年5月に改定されています。新しい避難情報の基準と、それに伴う避難行動についてもお知らせしますので、ぜひ参考にしてください。

**飯館村防災ハザードマップ**  
災害発生の恐れがある危険箇所や避難所を地図上で示したハザードマップと共に、日頃の備えに有効な情報や、改定された避難指示の詳細、災害時の避難方法なども掲載しています。「いざ」という時に備え、家族と共に内容をご確認ください。

## 大久保さんは令和元年台風19号の際、ビレッジハウスに開設された避難所に避難しました

## 避難の経験を聞きました

### 次も早目に避難しようと思います

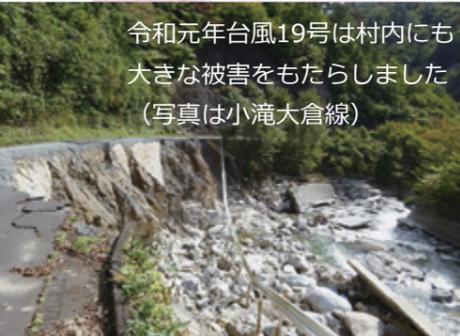
大久保 晃 さん  
(大久保・外内)

地形的に下っている場所にあるので、大雨が降り、地面が吸い切れなくなると、坂の上から水が流れてきます。今は、人のいる家、いない家がありますから、側溝の管理も難しく、水の流れがつまりやすくなっていると思います。

一昨年の台風19号の時は、役場が避難所を開設したと聞いて、すぐに避難しました。障害のある弟がいるので、早目に避難することは、日頃から考えていました。父はこれまでの経験から「避難は

しなくとも大丈夫だろう」と言っていました。逃げ遅れて初めて分かる怖さがありました。普段は何ともない道路が水浸しで、車が水没するニュースに現実味を感じました。経路の低い高いも普段から頭に入れておかなければならないと思いました。

避難所で、眠れない一夜を過ごしました。家は床下浸水で済みましたが、次に同じようなことがあれば、さらに早目に避難をしようと思っています。



令和元年台風19号は村内にも大きな被害をもたらしました  
(写真は小滝大倉線)

⑦小宮コミュニティセンター